

## 平成30年度ふれあいトーク議事録(基石地区)

日時 平成30年11月6日(火) 19:00～20:21  
 場所 基石公民館  
 出席者 基石地区住民 28名  
 市長、企画政策部長、総務部長、市民部長、産業振興部長、建設部長、教育次長、消防長、  
 防災危機管理監、事務局6名

質問の内容	回答
<p>1 上余川地区 男性                      自分は70才を超えており、生涯この地区で暮らしていくつもりである。今のところ自分は車を運転し市街地へ買い物等に出かけているが、今後、高齢になり運転免許証を返納した場合、移動手段がなくなり生活が不便になると思う。                      そのような思いから、NPOバス「やまびこ」を立ち上げ運営しているが、乗車率は年々減少している。これについては、人口減少の中では仕方ないとは感じているが、現在、基石地区では市の補助を受けた買い物支援サービス「とくし丸」の導入の話が上がっている。「とくし丸」のサービスは良いことだと思うが、導入した場合NPOバスの乗車率が更に下がり事業の継続が困難になる恐れがある。                      そのため市には「とくし丸」が基石地区に導入された場合、その影響でNPOバスの乗車率が下がった場合の対策を考えていただきたい。</p>	<p>企画政策部長                      NPOバスの乗車率を向上させるには、料金の設定やバスの運行ルート、運行時刻を考える必要がある。現在、NPOバスについては、地域の方が主体となり運営していただき、行政がそれを支援する体制となっている。そのため、市としてもNPOバスの乗車率向上に向けた取り組みについて、地域の方と協議していきたいと考えている。</p>
<p>2 同男性                      地域の活性化について、いろいろ考えているが、実行しようと思っても地域に若い人がいないため、なかなか実現に至らない。ただ考えはあるので、市も支援してほしい。</p>	<p>企画政策部長                      地域の活性化支援については、ソフト・ハードいろいろな支援がある。計画が具体的になった時点で、地域振興課にご相談いただきたい。</p>
<p>3 上余川地区 男性                      ストップザ少子化については良い事業だと思うが、過去40年を振り返ると、若い人達が氷見に戻って来ない現実と、それに伴う人口減少がある。                      その原因は氷見市で働く場所がないことにあると思うので、市にはもう少し働く場所について、考えていただきたい。</p>	<p>市長                      現在、氷見市では約1万人の方が市外の職場に勤務しており、反対に市外から約2,000人の方が氷見市の職場に勤務している。そのような現状からも、氷見で雇用を作っていくことが重要だと考えている。                      その取り組みの1つが、大浦第2工業団地に誘致した(株)小松製作所の新工場である。そこに研究施設が整備されれば、市内において研究職への道が開かれることにもなる。                      また新たな産業を創っていくことも重要である。例えば市内にある能越自動車の4つのインターチェンジ、その利便性を生かした工業団地の検討や、野菜工場等の新たな産業の創出についても検討を行っている。                      数年では実現は難しいと思うが、引き続き市民の方が市内で働けるよう、雇用の創出に取り組んでいきたいと考えている。</p>

	質問の内容	回答
4	上余川地区 男性 碁石公民館前の余川川であるが、この周辺の川底に砂が溜まり、川が浅くなっている。その影響で大きな雨が降ると、川の水が用水に逆流し、田んぼが水に浸かってしまう。 県の管轄との境目であり難しい箇所と思うが、現地を確認していただき、浚渫工事をしてほしい。	建設部長 余川川は砂防の指定に入っていないと見受けられるが、まず現地を確認させていただきたいと思う。
5		市長 昨年のおふれあいトークでも現地を視察している。県には浚渫工事の予算があるはずだが、工事箇所が多く十分な予算が確保できていない可能性もある。富山県氷見土木事務所には今日の要望を伝えていきたいと思う。
6	同男性 現在、夜間や休日の子どもの診療については、高岡市にある高岡市急患医療センターまで行かなければならない。何とか氷見市民病院で対応できないものか？	市民部長 氷見に限らず、全国的に小児科医が不足している現状においては、中学生までの子どもの夜間・休日診療について市単独での診療体制を確保することは難しい。そのため高岡市広小路にある高岡市急患医療センターにおいて、高岡医療圏の医師に交代で診察にあつたいただいている。 小児科医の不足については、毎年、国、県に対し小児科医の確保について要望を行っており、今後も引き続き要望していきたいと考えている。今のお話は金沢医科大学氷見市民病院にも伝える。
7	上余川地区 男性 何度か市に要望しているが、余川七分一間の氷見スーパー農道の樹木が倒れかかっているため、降雪前に伐採してほしい。 場所については、百谷トンネル七分一側から七分一交差点までの間である。	建設部長 要望については把握している。通常、車の通行の支障になる倒木等については、道路管理センターで伐採を行っているが、お話の樹木は高さがあり、今後の対策については協議が必要だと考えている。できるだけ早急に対応していきたい。
8		市長 補足をさせていただくと、樹木については個人の所有になるため、無許可で伐採することはできない。しかし道路に出ているならば緊急避難的に行政が伐採することは可能である。 今回のケースは、まず所有者の方に伐採を依頼し、それでも伐採していただけない場合、行政で対応することになると思う。そのため時間はかかると思われる。ご理解いただきたい。

	質問の内容	回答
9	<p>男性 コンベンション事業推進補助金について、氷見市では少子高齢化や人口減少により、税収の減少が見込まれる。その対策として観光推進、地域交流が必要だと思う。私は小中学生の運動クラブの代表をしており、毎年、県内外の人が600人規模で参加する大会の運営をしている。その方達には、できるだけ氷見市に宿泊して貰いたいと考えている。</p> <p>氷見市には県外から合宿等のために市内の民宿や宿泊施設を利用した場合の補助金が存在する。しかし市の規定では、同一団体からの申請について3年分しか交付がない。市からは一部、修学旅行や市が認めるものについては可能だと言われた。</p> <p>私としては、大会の際にはできるだけ多くの県外の方に氷見市で宿泊していただきたい。また小中学生が氷見市で宿泊すれば、将来また氷見に観光に来てくれることにも繋がると思う。なんとか3年分という期間の改善を検討してほしい。</p>	<p>産業振興部長 お話の、コンベンション事業推進補助金に関する規定は確かにある。ただしこの規定は相当前に策定されたものである。</p> <p>予算も伴う話であり即答はできないが、その規定が市内宿泊誘致の足枷になっていて使えないという現状であれば、早急に使いやすい制度になるよう検討していきたい。</p>
10	<p>上余川地区 男性 碁石地区には、倒壊しそうな空家や管理されていない空家がある。行政から空家所有者へ管理指導等を行うような、方策があれば教えていただきたい。</p>	<p>企画政策部長 碁石地区だけでなく市内全体で空き家が増えており、その中には倒壊の危険が高い空家もあり、そのような空家については「特定空家」としている。</p> <p>本来であれば、特定空家については、所有者が処分すべきだが、所有者がなかなか特定できず対処が困難な空家もある。その場合、市が所有者を追跡し処分を依頼する方法がある。</p> <p>それ以外に、特定空家の処分については行政代執行という方法もある。これは市が空家を取り壊し、その費用を所有者に請求する制度である。ただし市内で、この方法を実際に行った事例はない。まずは所有者を特定し、処分を依頼していきたいと考えている。</p> <p>所有者が全くわからない場合は、地域振興課までご相談いただきたい。</p>
11		<p>市長 昨年、市では地域の方に協力いただき空家の調査を行い、その結果を基に空き家のランク付けを行った。その中で倒壊の危険性が特に高い空家については、特定空家として判定している。特定空家の所有者に対しては、行政は空家の処分について勧告あるいは、行政代執行という手続きを行うことができる。</p> <p>私からのお願いになるが、今年の冬、凍結によって空家の水道管が破裂し、その影響で断水した地域があった。近所にお知り合い等から見守りを依頼されている空家がありましたら、冬に備え水道管が破裂しないように見回りをしていただきたいと思う。御協力いただきたい。</p>